

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:044101) フランス語Ⅰ(1) French I フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月3,木2	対象年次 1～	
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 :大教センター DPコード :abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 湯浅 翔馬, モリエール フランソワ, 園部 裕子	関連授業科目			
	履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。				
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。				
到達目標				
1. フランス語の基礎的な能力(聞く、話す、読む、書く)を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度の関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。				
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。				
【授業計画】 ・各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。				
月曜日 ・第1回:教科書と内容の確認、Alphabet Introduction 第2・3回:Lecon1 第4・5回:Lecon2 第6・7回:Lecon3				

第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、Alphabet Lecon0
第2・3回：Lecon1
第4・5回：Lecon2
第6・7回：Lecon3
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税
木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取ってみて、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 044102) フランス語 I (2) French I フランス語 I French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月3, 木3	対象年次 1~	
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。				
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。				
到達目標				
1. フランス語の基礎的な能力 (聞く、話す、読む、書く) を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験 5 級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2 / 3 以上の出席は単位認定に必須である。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。				
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習・復習・宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 				
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 				
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回: 教科書と内容の確認、Alphabet Introduction 				
第2・3回: Lecon1				
第4・5回: Lecon2				
第6・7回: Lecon3				
第8回: 中間試験				

第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、Alphabet Lecon0
第2・3回：Lecon1
第4・5回：Lecon2
第6・7回：Lecon3
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:044103) フランス語 I (3) French I フランス語 I French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月3,木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 湯浅 翔馬, 太田 陽子, 園部 裕子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。			
到達目標			
1. フランス語の基礎的な能力 (聞く、話す、読む、書く) を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習・復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 			
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 			
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回: 教科書と内容の確認、Alphabet Introduction 			
第2・3回: Lecon1			
第4・5回: Lecon2			
第6・7回: Lecon3			
第8回: 中間試験			

第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、Alphabet Lecon0
第2・3回：Lecon1
第4・5回：Lecon2
第6・7回：Lecon3
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:044104) フランス語Ⅰ(4) French I フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月4,木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。			
到達目標			
1. フランス語の基礎的な能力(聞く、話す、読む、書く)を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習・復習・宿題をして授業にのぞむこと。 ・音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 			
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 			
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回:教科書と内容の確認、Alphabet Introduction 			
第2・3回: Lecon1			
第4・5回: Lecon2			
第6・7回: Lecon3			
第8回: 中間試験			

第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、Alphabet Lecon0
第2・3回：Lecon1
第4・5回：Lecon2
第6・7回：Lecon3
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon4
第11・12回：Lecon5
第13・14回：Lecon6
第15回：まとめ
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間
※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 044201) フランス語Ⅱ (1) French II フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月3, 木2	対象年次 1～	
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。				
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。				
到達目標				
1. フランス語の基礎的な能力 (聞く、話す、読む、書く) を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。				
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習・復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 				
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 				
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回: 教科書と内容の確認、前期の復習 第2・3回: Lecon7 第4・5回: Lecon8 第6・7回: Lecon9 第8回: 中間試験				

第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、前期の復習
第2・3回：Lecon7
第4・5回：Lecon8
第6・7回：Lecon9
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：Lecon13
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすいものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 044202) フランス語Ⅱ (2) French II フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月3, 木3	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 湯浅 翔馬, 太田 陽子, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。			
到達目標			
1. フランス語の基礎的な能力 (聞く、話す、読む、書く) を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習・復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・ 各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 月曜日 ・ 第1回: 教科書と内容の確認、前期の復習 第2・3回: Lecon7 第4・5回: Lecon8 第6・7回: Lecon9 第8回: 中間試験			

第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、前期の復習
第2・3回：Lecon7
第4・5回：Lecon8
第6・7回：Lecon9
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：Lecon13
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 044203) フランス語Ⅱ (3) French II フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月3, 木2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。			
到達目標			
1. フランス語の基礎的な能力 (聞く、話す、読む、書く) を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度に関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習・復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 			
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 			
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回: 教科書と内容の確認、前期の復習 第2・3回: Lecon7 第4・5回: Lecon8 第6・7回: Lecon9 第8回: 中間試験			

第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：まとめ
学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、前期の復習
第2・3回：Lecon7
第4・5回：Lecon8
第6・7回：Lecon9
第8回：中間試験
第9・10回：：Lecon10
第11・12回：Lecon11
第13・14回：Lecon12
第15回：Lecon13
学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験
*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間
・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y！ ヴァズィ！』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 044204) フランス語Ⅱ (4) French II フランス語Ⅰ French I	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 後期月4, 木2	対象年次 1～	
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 モーリエール フランソワ, 湯浅 翔馬, 園部 裕子	関連授業科目			
	履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 日常生活でコミュニケーション手段として使われている生きたフランス語を題材に、まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、読解だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し行う。				
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる。				
到達目標				
1. フランス語の基礎的な能力（聞く、話す、読む、書く）を身につけることができる。 2. 挨拶、自己紹介などの簡単な表現ができる。 3. フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 4. フランス語圏の文化や社会について、ある程度の関心をもつことができる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点（出席および授業への積極的な参加）40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。 2/3以上の出席は単位認定に必須である。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
教科書に沿って、まず音声を聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。				
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・音声を繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 				
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・各曜日の指定の教科書の前半を学修するので、教科書の目次を参照すること。クラスごとに進度は異なる。以下はおよその目安とする。 				
月曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：教科書と内容の確認、前期の復習 				
第2・3回：Lecon7				
第4・5回：Lecon8				
第6・7回：Lecon9				

第8回：中間試験

第9・10回：Lecon10

第11・12回：Lecon11

第13・14回：Lecon12

第15回：まとめ

学期末試験

木曜日

・第1回：教科書と内容の確認、前期の復習

第2・3回：Lecon7

第4・5回：Lecon8

第6・7回：Lecon9

第8回：中間試験

第9・10回：Lecon10

第11・12回：Lecon11

第13・14回：Lecon12

第15回：Lecon13

学期末試験

*中間試験：各クラスとも、各曜日ごとに、授業時間内に行う【月・木に各1回ずつ受験する】。上記の日程はおよその目安であり、実際の日程は授業中に指示する。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

・学期末試験

*全クラス合同で1度だけ行う【1回だけ受験する】。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：1時間×週2回×15週＝30時間

・事後学習：1時間×週2回×15週＝30時間

※語学は一度にまとめて勉強しても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。

教科書・参考書等

月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。必ず生協で売っている最新版を買うこと。教科書は毎年、改訂されるので、旧版を使用してはならない。

月曜：『Parallele1パラレル1』、白水社 2200円＋税

木曜：『Vas-y! ヴァズィ!』駿河台出版社 2750円

*辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。

自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。

推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）、『ディコ』（白水社）、『クラウン』（三省堂）、『プログレッシブ』（小学館）。

ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用しないこと。

電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

オフィスアワー 各担当教員が講義中に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の会話や聞き取り練習には積極的に参加すること。まったく参加しない場合は「不可」とすることもある。

スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。

中間試験の日程や範囲は、月・木それぞれの授業中に指示され、掲示はされない場合がある。未受験の場合も教員から連絡はしないので、自己管理すること。特別な事由による欠席の場合は、所定の書式を提出すること。

いずれの試験も受験しなかった場合、「不可」となる。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:044301) フランス語Ⅲ(1) French III フランス語 III French III	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月2	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 :大教センター DPコード :abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 フランス語会話III		
	履修推奨科目 フランス語I, II		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 フランス語の文法基礎の完成をめざす。語彙力をつけながら、これまでに学習した文法の復習、まだ学習していない文法の学習をする。日常生活でよく使う表現や語彙を学びながら、短文の読解、作文や会話の練習をする。			
授業の目的 1年次のフランス語I、IIで学んだ基本的な文法・語彙や慣用表現を確実に使える。フランス語の短文を読む。			
到達目標			
基礎文法を使って日常生活の場面についての簡単な会話ができる。 日常生活についての短文を読んで理解できる。 日常生活について一文ずつ書くことができる。 仏検3級合格程度のフランス語力を獲得する。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業への参加)30%、中間試験30%、期末試験40%により、総合的に評価する。平常点は、積極的な参加や発表が評価の対象となる。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 教科書は、日常生活の場面設定になっているので、実践的な表現を学んでいきます。 教科書からいくつかの課を抜粋し、各課の練習問題は宿題とする。 初回から授業を行うので、必ず予習をしておくこと。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習の仕方の説明、Lecon 1(予習をしておくこと)) 第2回: Lecon1 第3回: Lecon2 第4回: Lecon3 第5回: Lecon4 第6回: Lecon5 第7回: Lecon6 * 中間試験 第8回: Lecon7 第9回: Lecon8 第10回: Lecon9 第11回: Lecon10 第12回: Lecon11 第13回: Lecon12 第14回: Lecon13 第15回: Lecon14			

学期末試験

この科目は基本的に対面授業を行います。

【自学自習に関するアドバイス】

*予習（毎回、1時間ずつ）

- ①単語について、辞書で再確認し、発音練習をする。
- ②文法を確認する。

*復習（毎回、1時間ずつ）

- ①次回までに覚えるべき活用などの発音練習をしながら綴りを確認する。
- ②宿題として教科書の問題を解く。
- ③その他の宿題を行う。

*コツ

新しい語彙や文法事項はそのつどしっかり覚え、復習する。出された宿題は必ず期間内にこなすこと。

教科書・参考書等

『Cafe francais 2』、朝日出版社、2500円＋税

久保田剛史ほか『フランス語動詞60－活用・用法・索引』朝日出版社、1500円＋税

必ず2冊とも購入して自宅学習に使い、授業にも持参すること。

辞書は必ず授業に持参すること。

オフィスアワー　　まず授業時に相談すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業では受講者が会話や発音練習をしたり、問題を解いたりしながら進められます。誰でも間違えて当たり前なので、積極的に参加して下さい。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 044302) フランス語Ⅲ (2) French III フランス語Ⅲ (2) French III	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期月2	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1		
担当教員名 湯浅 翔馬	関連授業科目 フランス語会話III			
	履修推奨科目 フランス語I, II, フランス語会話III			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 基礎文法を完成させることを目的とする授業です。 1年次で学習したことを復習するとともに、より高度な文法や語彙、表現を学びます。 教科書を基に、文章読解、作文、会話の能力を養います。				
授業の目的 1 フランス語の基礎文法 (仏検 3級合格程度) を身につける。 2 基礎的な文法、語彙を用いたフランス語の文章を理解し、表現できるようになる。 3 フランス語の学習を通じて、フランス語圏の文化に対する理解を広げる。				
到達目標				
1 フランス語の基礎文法を説明できる。 2 平易なフランス語の文章を読む、書く、言う、聞いて理解することができる。 3 異文化を積極的に理解しようとする姿勢を持つことができる。 1 および 2 は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に、3 は「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験 (40%) から総合的に評価する。 平常点は授業での発言など積極的な参加姿勢を評価する。 全体の2/3以上の出席がない場合は不可となる。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 基本的には講義形式で進めますが、ペアワークやグループワークを用いて、会話表現の練習も行います。復習のための宿題を課します。 中間試験・期末試験の他、理解度の確認のために小テストを定期的に行います。				
【授業計画】 教科書に沿って毎回1課ずつ進める予定ですが、受講者の理解度によって調整します。				
第1回 オリエンテーション (授業の方法や学習の仕方、Lecon 0?1) 第2回 Lecon 2 第3回 Lecon 3 第4回 Lecon 4 第5回 Lecon 5 第6回 Lecon 6				

第7回 中間試験、Lecon 7

第8回 Lecon 8

第9回 Lecon 9

第10回 Lecon 10

第11回 Lecon 11

第12回 Lecon 12

第13回 Lecon 13

第14回 Lecon 14

第15回 Lecon 15

*学期末試験

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

・予習（毎回1時間）

知らない単語の意味と発音を調べておく。

文法解説に目を通しておく。

教科書の例文の意味を考えておく。

・復習（毎回1時間）

学んだ語彙や文法が定着しているかどうか確認する。

文法解説を読み返し、確認する。

宿題として課された問題を解く。

教科書・参考書等

フロランス・容子・シュードル、シルヴィ・恵子・サンジェス他『カフェ・フランセ2』朝日出版社、2,750円（2,500円+税）。

参考書に関しては必要に応じて指示する。

オフィスアワー 木曜日5限（まず授業後に相談してください）。

南3号館3階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

予習復習が必要です。授業の際は間違いを恐れず、積極的に参加しましょう。

教科書と辞書は毎回必ず持参してください。

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード:044401) フランス語会話Ⅲ (1) French conversation Ⅲ French conversation Ⅲ	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期木3	対象年次 2～
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 フランス語 履修推奨科目 フランス語		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 フランス語をたくさん聞いたり、会話したりする作業が中心の、アクティブラーニング方式の授業です。挨拶、職業や住んでいる場所についてたずねる、好き嫌いの程度を言い表す、人物の描写などについて、フランス語を使って口頭で表現する練習をする。間違ってもまったく気にしなくて良いので、とにかく声を出し、たくさん発言してもらいたい。 フランス語を使って話をしてみたい学生を歓迎します。 【他の授業科目との関連】 フランス語会話Ⅲは、口と耳を使う訓練を中心に行う。フランス語Ⅲは、文法項目の学習に基づいた言語運用能力の向上をめざす授業になる。合わせて総合的なフランス語運用能力の向上を目指す。			
授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> ・1年目の既習文法を使いこなすことが目的。 ・フランス語に慣れ、聞き取りと会話能力を少しずつのばす。 ・性数の一致と冠詞・所有形容詞に気をつけながら発言できる。 ・動詞の現在形の活用を使ってやりとりできる。 ・持ち物、趣味、人物などについて、短いやりとりができる程度の能力 (DELTA A1程度*) が身につく。 *DELTAはフランス国民教育省認定の公式フランス語免状			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・性数一致に気をつけて冠詞・所有形容詞を使える。 ・動詞の現在形の活用を使える。 ・挨拶、職業、自分の好み、自分のこと、家族のことなどについて会話できる。 ・自分と家族など身近な人物を紹介する expose (2分程度の発表) をフランス語でできるようになる。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 平常点(積極的な参加と宿題の提出)30%、授業の成果として最終回に行う自己&知人紹介30%、学習した内容について筆記式の期末試験40% などにより、総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1年目に学んだ基礎文法、動詞の現在形の活用を使いこなせるようにするための授業です。身の回りの物・趣味・性格や特徴についての語彙を学んで、口頭で使ってみる。とくに性数一致に気をつけて発音する練習を続けて、自己&知人紹介ができるようにする。 *授業中に使う課題は、外国語としてのフランス語 (Francais Langue Etrangere: FLE) 学習用にフランスで発行された教材を中心に、日本人向けの聞き取り教材、インターネット上の音源などから用意する。 【授業の課題】 ○自分および、自分と性別の違う知人(家族、友人など)についての紹介を2分程度の自己&知人紹介として準備し、最終回に発表する。			

○教科書の問題からだされる宿題により、学習内容を確認する。

【方法】

- ・1回の授業でLeconを1つずつ進める。ただし進度と内容は受講者の理解度により調節する。
- ・アクティブラーニング形式で、グループ学習を中心に進める。
- ・授業中の質問をフランス語でするためのセリフを暗記し、使ってみる。
- ・教科書に沿って、口頭でやりとりの練習をする。

この科目は全回、対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべて対面または一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

【授業の計画】

- (1) Initiation1 et 2
 - (2)～(4) Unite 1: 名前、職業、住んでいる場所について話す *早口言葉 1
 - (5)～(7) Unite 2: 好みを言う
 - (8)～(10) Unite 3: 自分について話す *早口言葉 2
 - (11)～(13) Unite 4: 趣味・家族について話す
 - (14) 復習とまとめ、リハーサル
 - (15) 自己&知人紹介expose oral
- 期末試験

【自宅学習】

(予習1時間・復習1時間)

- ・教科書は日本語・Francaisの2言語で書かれているが、辞書で単語調べをしておく。
- ・音声教材を用いて、聞き取り・発音練習をする。
- ・自己&知人紹介を準備し、練習する(授業の後半)。

教科書・参考書等

教科書 Gael Crepieux, Philippe Callens 『Spirale Nouvelle edition 新スパラル日本人初心者のためのフランス語教材』 Hachette アシエット・ジャポン 2650円

辞書は毎回、持参すること。

参考書については、必要に応じて指示する。

オフィスアワー オフィス・アワー：予め連絡・予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最初の授業に出席すること。この授業は、受講生の自宅学習による準備と授業中の積極的な参加がなければ進行しません。不適切な態度では学期中でも受講を断り、単位を認定しない場合があります。

【受講者数の調整を行う場合がある】

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 044402) フランス語会話Ⅲ (2) French conversation III フランス語会話Ⅲ (2) French conversation III	科目区分 外国語科目	時間割 2023年度 前期木3	対象年次 2～	
	水準 学士:基礎科目 分野 フランス語	提供部局 : 大教センター DPコード : abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1		
担当教員名 湯浅 翔馬	関連授業科目 フランス語III			
	履修推奨科目 フランス語I、フランス語II、フランス語III			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 フランス語で書かれた教科書に基づいて、フランス語で話すこと、フランス語を聞くことを中心に学ぶ授業です。 1年目に習った基礎文法に基づいて、挨拶や自己紹介、日常会話などについて、コミュニケーションを行う練習をします。 ペアワークやグループワークを用いて会話能力を少しずつ身につけます。				
授業の目的 1 既習の基礎文法に基づいて、語彙力や表現力を伸ばす。 2 フランス語でのコミュニケーション能力を養う。 3 フランス語圏の文化に対する理解を広げる。				
到達目標				
1 フランス語で詳しい自己紹介や、家族、友人の紹介ができる。 2 フランス語で平易な日常会話ができる(フランス国民教育省認定の公式フランス語資格 DELF A1?2 程度)。 3 異文化に対して理解をもって接することができる。 1 および2 は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に、3 は「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。				
成績評価の方法と基準 平常点(30%、宿題の提出や授業への積極的な参加)、最終回のフランス語での発表(30%)、期末試験(40%)から総合的に評価する。 なお全体の2/3の出席がないと不可となる。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 ペアワーク・グループワークを主に用いる演習形式の授業です。 受講者同士、あるいは教員とフランス語での会話練習をします。間違いは気にしないので積極的に発言しましょう。 最終回では受講者のひとりひとりにフランス語での口頭発表expose(自己紹介)を行ってもらいます。 *この科目は全回、対面授業を行います。なお状況に応じて授業形態を変更する可能性があります。				
【授業計画】 1回の授業で1課(Lecon)分を進める予定ですが、受講者の理解度や関心に応じて調整します。 第1回 オリエンテーション(授業の方法や学習の仕方、Initiation1?2) 第2回 Lecon 1 第3回 Lecon 2				

第4回 Lecon 3
第5回 Lecon 4
第6回 Lecon 5
第7回 Lecon 6
第8回 Lecon 7
第9回 Lecon 8
第10回 Lecon 9
第11回 Lecon 10
第12回 Lecon 11
第13回 Lecon 12
第14回 発表の予行演習
第15回 発表
*学期末試験

【自学自習のアドバイス】

・予習（毎回1時間ずつ）
次回の範囲の単語の意味と発音を調べておく。
音声教材を聞き、発音してみる。

・復習（毎回1時間ずつ）
宿題を解く。
学んだ文法、語彙、表現を身につくまで復習する。
フランス語だけで理解できるまで繰り返し音声教材を聞き、発音してみる。
最終回の発表の準備をする。

教科書・参考書等

Gael Crepieux, Philippe Callens 『Spirale Nouvelle edition 新スパラル 日本人初心者のためのフランス語教材』 Hachette (アシェット・ジャポン)、2,915円 (2,650円+税)。
参考書は必要に応じて案内します。

オフィスアワー 木曜日5限（まず授業後に相談してください）。
南3号館3階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書と辞書は毎回持参してください。
演習形式で行います。間違いを恐れずに、積極的に発言、参加しましょう。